

山の手
ひとまもり・まちまもり協議会
地域ビジョン

令和7年3月



目次

【第1部】 山の手地区について	1
1 あいさつ	1
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは.....	2
3 山の手地区の概要.....	3
4 山の手地区の人口.....	4
5 協議会の体制	5
6 今までの活動	5
【第2部】 地域ビジョン策定について	6
1 地域ビジョンについて	6
2 地域の現状について.....	6
3 山の手ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標.....	8
4 山の手ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン	10
【第3部】 課題解決ワークショップの開催について	11
1 課題解決ワークショップの開催	11
2 【第1回】 地域の課題について考える.....	12
3 【第2回】 地域で求められていることを考える	14
4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える	15
5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿	18

【第1部】 山の手地区について

山の手ひとまもり・まちまもり協議会が
地域の明るい未来の実現にむけて活動していくために
「地域ビジョン」を策定しました。

1 あいさつ

山の手地区は、「別府公園」、「別府市公会堂」、「べっぴんアリーナ」など別府市の文化・スポーツ活動の拠点となる公共施設が立地し、別府駅への交通の利便性も高い閑静な住宅地です。また、地域には共同温泉が多数点在し、昔ながらの温泉をコミュニティとした地域文化も息づいています。

本協議会は、平成30年6月に発足し、西地区、青山地区、野口地区の自治会23町と7つの構成団体が連携し、人と人とのつながりを大切に、助け合う気持ちを育むことを重視しながら活動してまいりました。

そして、このたび、「山の手ひとまもり・まちまもり協議会地域ビジョン」を作成しました。これは、地域の皆さまと共に地域の未来を考え、意見を交わしながらつくり上げたもので、今後の活動の指針となります。

この地域ビジョンをもとに、地域の多様な団体や幅広い世代の人々が協議会の活動に参加し、美しいまち、楽しいまち、元気の善いまちづくりをさらに進めていきたいと考えております。今後とも協議会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

山の手ひとまもり・まちまもり協議会
会長 平石 栄二

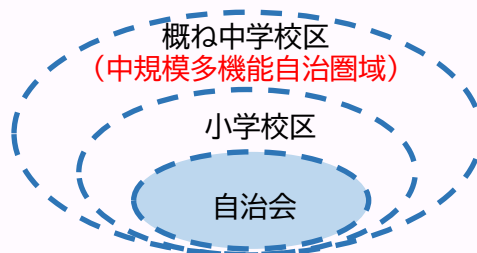
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは

～地域がつながるまちづくり 市内7つの新たなコミュニティ～

【持続可能な地域コミュニティに向けて】

別府市では将来に向けて、従来の小学校区の自治の範囲を概ね中学校区の圏域に広げて自治運営の基盤を拡大することにより、様々な機能をもつ中規模多機能自治を推進しています。

現在、7つの圏域の地域運営組織として、多様な主体が連携する「ひとまもり・まちまもり協議会」が新たな地域コミュニティを形成し、地域の特性をいかながら課題解決に取り組んでいます。



別府市 HP より

【ひとまもり・まちまもり協議会とは】

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。

自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

別府市 HP より

■ ひとまもり・まちまもり協議会一覧

概ね中学校区の圏域で7つのひとまもり・まちまもり協議会が活動しています。



山の手



中部



南部



朝日大平山



北部



鶴見・南立石・東山

鶴見台

鶴見台

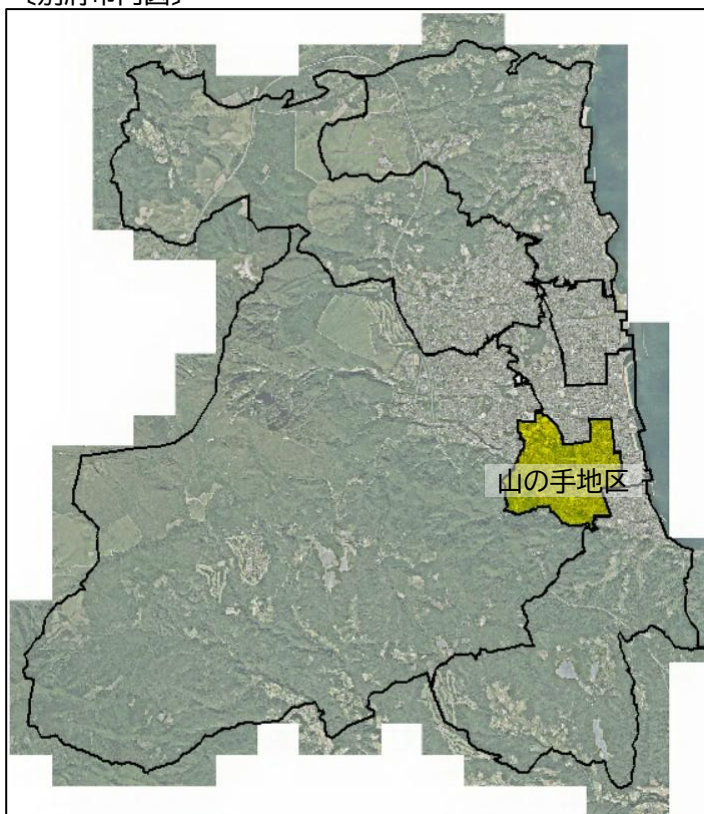
別府市 HP より

3 山の手地区の概要

山の手地区は、別府市の南西部に位置し、別府駅周辺の中心市街地と西部の緩やかな傾斜地には閑静な住宅街が広がり、豊富な源泉からなる市営温泉や共同温泉が点在しています。別府市公会堂・べっぴんアリーナ等の主要な公共施設が立地し、市内最大の面積を誇る別府公園や標高約 300mの高台には乙原の滝などの景勝地もあり、自然環境にも恵まれた地域です。交通の面では、東西に延びる富士見通り・青山通り・流川通りといった主要な道路に接しており、利便性も高く住みやすい環境が整っています。

地区の人口は約 16,600 人、世帯数は約 9,600 世帯、高齢化率は約 35.5%であり、7圏域(協議会)で、人口は3番目に少なく、高齢化率は4番目に高くなっています。(※人口・世帯数・高齢化率は令和6年7月末現在の数値)

〔別府市内図〕

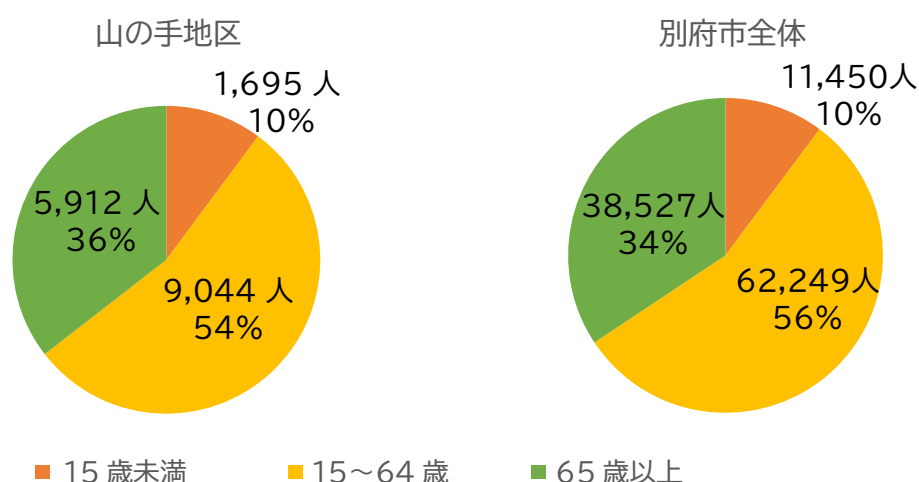


【山の手ひとまもり・まちまもり協議会の基本情報】

設立	平成30年6月25日
事務所	別府市中島町7番49号 別府市立別府西中学校内 コミュニティールーム(通称:山の手村)
構成団体	自治会(野口・青山・西23自治会)、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、青少年育成協議会、体育協会、防災士会、地域包括支援センター、教育機関(小学校、中学校、PTA)、協力団体(消防団・交番・有識者 他)
該当地区	幸町、富士見町、野口中町、野口元町 1・2 区、駅前本町、駅前町、中央町、西野口町、田の湯町、上田の湯町、青山町、上原町、山の手町、原町、中島町、光町 1・2・3 区、朝見一丁目 1 区、朝見二丁目、朝見三丁目、乙原

4 山の手地区の人口

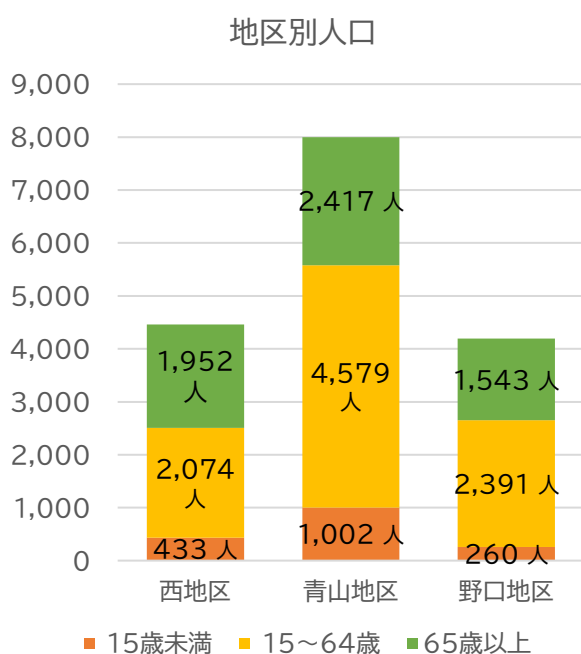
■ 山の手地区と別府市全体の人口構成(令和6年7月末現在)



山の手地区は65歳以上の高齢人口割合が約36%となっており、別府市全体(約34%)と比較するとやや高くなっています。一方で、15歳未満の年少人口割合は別府市全体とほぼ同じ割合となっています。

全体傾向は別府市全体と大きく変わらないものの、高齢人口が若干多く、15歳～64歳にあたる生産年齢人口割合が若干少ない点が特徴と言えます。

■ 地区別の人口(令和6年7月末現在)

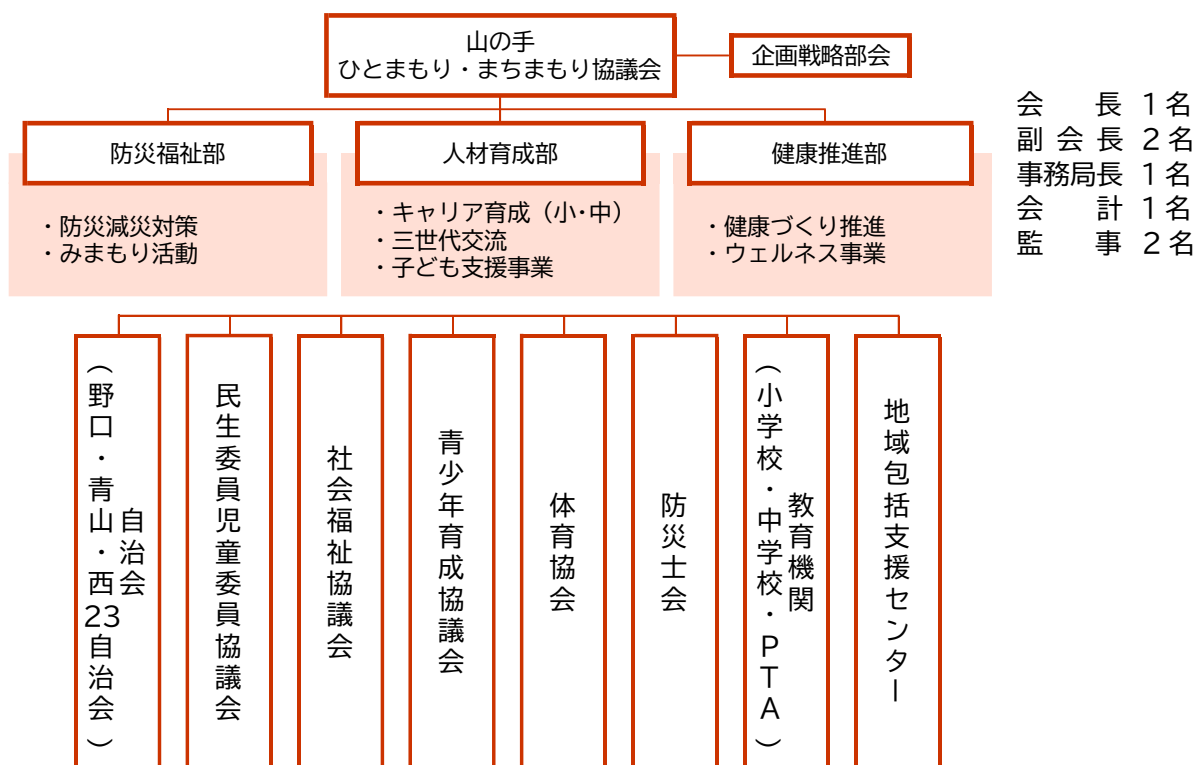


地区別の人口を見ると、西地区が約4,500人、青山地区が約8,000人、野口地区が約4,200人で、青山地区が最も人口が多い地区となっています。

地区別の人口構成をみると、15歳未満の年少人口割合は青山地区が約13%と他2地区よりも高く、15歳から64歳にあたる生産年齢人口の割合も青山地区が最も高くなっています。65歳以上人口の割合の高さは西地区、野口地区、青山地区の順になっており、地区により年齢構成に差があることが特徴として挙げられます。

5 協議会の体制

【組織図】



6 今までの活動

【デジタル推進事業】

若手メンバーで構成する「地域デジタル推進クラブ」を結成し、デジタル推進に向けた取組を行っています。

- ・スマホ出前教室
- ・スマホよろず相談日
- ・公式 LINE の開設



【地域交流・人材育成事業】

幅広い世代の住民の交流、健康増進、人材育成事業を行っています。

- ・納涼音頭大会
- ・三世代ふれあい交流会
- ・地域ふれあいミュージックフェスタ
- ・キャリア教育（山の手小学校・別府西中学校で実施）
- ・先進地視察研修



【みまもり活動】

P T A、民生委員、自治会、地域企業などが連携し、地域の見守り活動を行っています。

- ・登下校指導と見守りを行う「にこにこサニー隊」の活動
- ・のぼり旗や「飛び出しくん」看板の整備

【第2部】 地域ビジョン策定について

1 地域ビジョンについて

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。

2 地域の現状について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施し、山の手ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題、目指すべき姿について整理しました。

① 幅広い世代が活躍する地域にする

本協議会では、納涼音頭大会(8月)をはじめとする様々な活動を通じて、住民が輝ける場を提供し、多くの方々が活躍できる機会を創出してきました。これらの取組により、地域内での交流が増え、地域全体の活気が高まるとともに、住民同士の絆も深まっています。

一方で、ライフスタイルの多様化が進む中で、これまでの活動のあり方を見直し、より多くの世代が参加しやすい形へと進化させることが求められています。例えば、地元サッカーチームと連携したイベントでは、地域の皆さんが楽しみながら健康づくりに取り組むと同時に、世代を超えた交流を深める機会となりました。このように、既存の活動をいかしつつ、住民の皆さんの意見を積極的に取り入れることで、より多くの方がかわりやすい地域づくりを進めていきます。

今後は、次世代の担い手を育成する観点からも、若い世代のアイデアを積極的に活用し、斬新で魅力的な取組を通じて、地域全体の活性化を実現します。

② 子どものためにできる活動を考える

本協議会では、PTAや学校と連携し、見守り活動などの子どもの日常をまもるための取組を行っています。しかし、子ども会が減少傾向にあり、子ども中心の活動が減少している現状があります。そこで、協議会では子ども中心の活動を充実させ、子どもたちがより心豊かに成長できる環境を整えます。また、地域全体で子どもたちを支える体制を強化し、今後も、地域の声を反映しながら、子どもたちが誇りに思う地域にしていきます。

③ 住民が関心を持てるような情報発信をする

本協議会では、住民のデジタル技術の活用を支援するために、デジタル推進事業に取り組んできました。若手メンバーで構成する「地域デジタル推進クラブ」を中心に、スマホ教室やスマホよろず相談日などの活動を通して、デジタル化の推進に加え、世代間交流につながっています。

また、住民への情報発信を強化するために公式LINEを開設し、迅速かつ効果的な情報提供の体制を構築しました。今後は、より多くの住民への普及と、発信内容の充実を図り、住民に必要な情報を届けることを目指していきます。既存の掲示板や回覧板も活用しながら、多様な手段を通して住民の生活をより便利で豊かにしていきます。

3 山の手ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

地域の現状や課題の確認から整理したキーワードより、山の手ひとまもり・まちまもり協議会が活動するうえで活動目標と活動方針を整理しました。

● 活動目標①

幅広い世代が活躍する地域づくり
求められていること
・ 若い世代のアイデアを積極的に取り入れる ・ 活動を通して新しい世代を育成する ・ 参加しやすい活動にすることで気軽に声をかけあえる関係をつくる
活動方針
新たな意見を積極的に取り入れることで、多世代が積極的にかかわりたくなる組織にし、住民全体での地域づくりを実現します。

● 活動目標②

地域行事の変化と新しい取組
求められていること
・ 取組の目的や目標を明確にする ・ 必要に応じて活動の見直しを検討する ・ 時代に合わせて活動を柔軟に変化させる
活動方針
時代に合わせて活動を変化させていくことで、既存の枠組みを超えた新しい取組にチャレンジします。

● 活動目標③

子どもが誇りに思う地域づくり

求められていること

- ・ 子どもが中心となり活躍できる活動
- ・ 親世代の参加を促す方法を探る
- ・ PTAや学校との連携

活動方針

子どもや親世代が地域を誇りに思い、将来のために積極的に活動に参加したいと感じる地域にします。

● 活動目標④

地域のデジタル推進と情報発信

求められていること

- ・ デジタル発信方法やケーブルテレビの活用の幅を広げる
- ・ 若者を取り込む情報発信方法を検討する
- ・ 公式LINEの活用を促進する

活動方針

多様な手段を用いて効果的な情報発信を行い、幅広い世代に必要な情報を届けていきます。

4 山の手ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

設定した活動目標や活動指針から、山の手ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

次の世代へ想いをつなぐ
「自分たちの手で支え合うまち」へ

山の手ひとまもり・まちまもり協議会の 目指す地域づくり

本協議会は、「助け合い・地域の絆」を大切にし、さまざまな課題の解決に取り組む組織として活動しています。別府市の中でも率先して協議会を立ち上げ、デジタル化の推進や、人材育成など積極的に取り組んできました。その結果、地域交流が活発になり住民同士の絆が形成され、日常的にコミュニケーションができる地域になりつつあります。

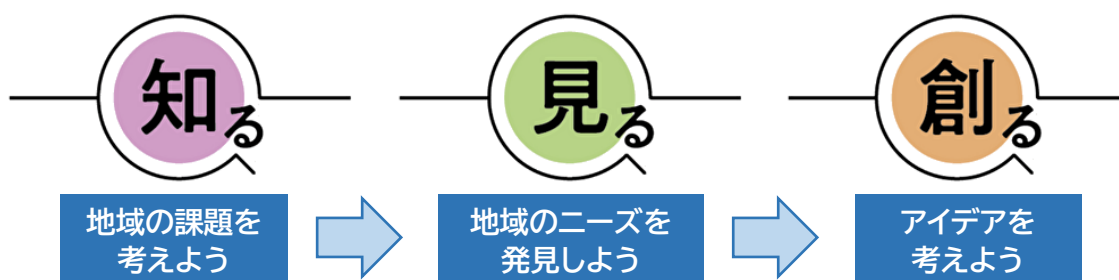
協議会を次の世代につないでいくためには若い世代の意見やアイデアを積極的に取り入れ、地域の課題に対する新たな視点を加え、より柔軟な活動を行うことが求められています。そのために、新たな世代を中心とした活動を実践し、将来、協議会の中心メンバーとして活躍する人材の発掘と育成に力を入れていきます。また、「自分たちのまちは自分たちの手で」の合言葉のもと、誰もが参加しやすい環境をつくり、世代を超えた協力体制を築いていきます。

地域の伝統や文化をまもりながら、革新的な活動に挑戦し続けることで、これからも地域の発展と、住民のための協議会を目指していきます。

【第3部】 課題解決ワークショップの開催について

1 課題解決ワークショップの開催

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考※を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



【第1回】 地域の課題について考える

活発な意見交換の中で、地域に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題について考えました。

【第2回】 地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中に潜在する「ニーズ」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。

【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

第2回で設定された「問い」を解決するための具体的なアイデアを考え、「絵(図)」という形でイメージを具体化しました。

ビジョンの検討、とりまとめ

ひとまもり・まちまもり協議会 地域ビジョン策定

※デザイン思考とは

問題を解決するための思考法の一つです。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

2【第1回】地域の課題について考える

活発な意見交換の中で山の手地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題が何なのかを考えました。参加メンバーから挙げられた課題を紹介します。

(令和6年10月23日実施)

キーワード	人材、役員のなり手不足
実際の意見	・子育て世代に地域づくりに参加してほしい ・イベントの参加者から運営側に回ってほしい ・持続的な人材確保につながっていない ・次世代の担い手が少ない
キーワード	地域行事
実際の意見	・やり方を変えないと若者が参加しない ・イベント等がただの押し付けになっていないか、一緒につくっていく
キーワード	つながり、人間関係、コミュニティ
実際の意見	・非常時に備えて平時から人間関係を構築していくことが重要 ・防災以外で人を集めるのが難しい ・地域の子ども会がなくなって若い世代のつながりが無い ・今の時代に合った若者・子育て世代の取組が必要 ・習い事などがあり時間が取れない

キーワード	協議会のあり方
実際の意見	・ 地区の課題を見つけ、対策を講じなければならない ・ 協議会で課題を共有しなければならない ・ 協議会の人々のつながりを強化する

キーワード	その他
実際の意見	・ 共同温泉の再活用を考える必要がある ・ 単身・独居世帯の住民が多い ・ 空き家が増えて管理ができていない



課題からの気づき
・ 若い人へのヒアリングが不足しており、若い人の声を聴く機会や交流の場が少ない ・ 子どもが中心となる活動や、子どもや子育て世代がつながれる活動が必要 ・ 協議会同士の取組の共有の場があれば刺激や参考になる ・ 助け合いの気持ちが薄れ、自治会や協議会に入るメリットがないと思われる



3【第2回】地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中で「求められていること」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。2つのグループでどんな「問い」にたどり着いたかを紹介いたします。

(令和6年11月22日実施)

■ 設定された「問い」①

課題解決のための問い

「どうすれば、子どもが地域を誇りに思い、地域愛を持ち、地域に残ってくれるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 子どもが主体的に活動できる組織や取組
- ・ 子どもたちが地域に貢献したい気持ちをいかして、輝けるような仕組み

■ 設定された「問い」②

課題解決のための問い

「どうすれば、地域の人に気軽に声をかけられる状況をつくることができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 地域で何かを実践したい若者からのアプローチと、協議会役員からの相互のアプローチ
- ・ 参加者側から運営側に入りたい気持ちがある人を取りこぼさない

4【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

【第2回】のワークショップにて、山の手地区の「本質的な問い」を2つ設定しました。

(令和6年12月13日実施)

課題解決のための問い

1. どうすれば、子どもが地域を誇りに思い、地域愛を持ち、地域に残ってくれるだろうか？
2. どうすれば、地域の人に気軽に声をかけられる状況をつくることができるだろうか？

この問いに対して、ワークショップの参加メンバーで4つのグループに分かれて、実際にどう行動していくかアイデアを出し合いました。

次のページから、内容について紹介します。

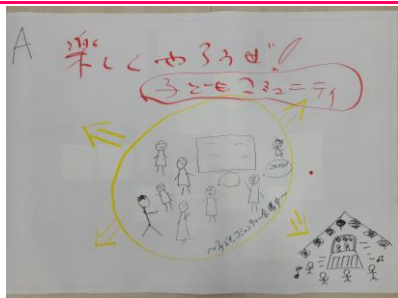


アイデア A

【課題解決のための問い】

～楽しくやろうぜ！～
子どもコミュニティ

どうすれば、子どもが地域を誇りに思い、地域愛を持ち、
地域に残ってくれるだろうか？



【アイデアの視点】

子どもたちに地域への誇りや愛を持ってもらうためには、子どもが主体的に動けるコミュニティが必要。子どもたちがやりたいことを実行していくイメージ。

子どもコミュニティ

子どもたちが自分たちでやりたいことを考えて、相談しつつ主体的に動けるコミュニティをつくる。子ども会が形を変えて再生していくことを目指す。

音頭大会

子どもコミュニティでの会議をもとに、様々なイベントを実施していく。例えば音頭大会。練習会から子どもにリードしてもらい、当日は屋台も出して自分たちで稼いで報酬をもらう楽しさを経験してもらう。

アイデア B

【課題解決のための問い】

～一人ひとりが主役～
子どもが主役の実行委員会

どうすれば、地域の人に気軽に声をかけられる状況をつくることができるだろうか？



【アイデアの視点】

子どもたち一人ひとりが主役となって地域活動を運営することで地域への愛着を持ってくれるのではないかと考えた。子どもたちが実行委員となって運営していくイベントのアイデア。

音頭大会

音頭大会の運営を中学生に任せてみる。実行委員会を経験させつつ地域のアイデンティティを学んでもらう。先入観を持って若い人たちを否定することなく、10代、20代の視点を大切にする。

歩こう会

地域の名所を子どもたちが知る歩こう会を実施。実行委員会を早めに立ち上げ、周知を徹底しスムーズな運営や安全への配慮など必要に応じて大人もサポートするが、あくまでも子ども主導で行う。

アイデア C

【課題解決のための問い】

～親しみを込めて～

みんなで名前を呼びあう協議会

どうすれば、地域の人に気軽に声をかけられる状況をつくることができるだろうか？



【アイデアの視点】

気軽に声をかけられる関係性を構築していくには心理的な距離を縮めることが重要。そのために名前呼び合うことが有効なのではないかと考えた。

気軽に集まれる場

カフェや喫茶店で協議会公認の交流会を行う、公民館をスナックとして利用するなど、みんなが気軽に集まれる場所をつくるアイデア。

名前で呼びあう協議会

地域の人が集まる場では名札をつけて自己紹介をする。2回目からは名前で呼ぶことで親近感が湧き仲良くなれる。そうやって仲良くなっていくことで気軽に声をかけられる関係性を地域内に増やしていく。

アイデア D

【課題解決のための問い】

～ギネスに挑戦～

別府公園で大鍋大会

どうすれば、地域の人に気軽に声をかけられる状況をつくることができるだろうか？



【アイデアの視点】

地域の人に気軽に声をかけられる状況をつくるために交流の場、機会を設けることが重要であると考えた。これまで地域行事に参加してこなかった人にも参加してもらうためのアイデア。

得意をいかしたものづくり教室

色々な人の得意なことを教え合うことで楽しく交流ができる。しめ縄づくりや門松づくり教室を開いたり、子どもにペットボトルロケットを教えたり三世代みんなで参加するイメージ。

余り食材で大鍋大会

地域の人みんなで余った食材を持ち寄って大鍋大会を開く。別府公園に集まり、大人数での食事イベントとしてギネス記録にも挑戦。待ち時間にはドッグランで人も犬も交流しつつ体を動かし、お腹を空かせる。

5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	平 石 栄 二	中島町自治会長・ 西地区社会福祉協議会長
副 会 長	友 永 丈 一	野口中町自治会長
副 会 長	緑 川 稔	上原町自治会長・ 青山地区社会福祉協議会長
事 務 局 長	平 松 徹 夫	朝見一丁目1区自治会長・ 西地区青少年育成協議会長
会 計	後 藤 智	西地区社会福祉協議会事務局長
監 事	花 木 淳 子	青山地区民生委員会会長
防 災 福 祉 部 会 長 部 会	河 合 規 充	西野口町自治会長
理 事	阿 部 悟	山の手町自治会長・ 青山地区体育協会会長
理 事	樽 見 孝 夫	野口元町2区自治会長・ 野口地区体育協会会長
理 事	黒 木 愛 一 郎	西地区体育協会会長
理 事	酒 見 敏 雄	西地区防災士会事務局長
理 事	首 藤 誠	富士見町自治会長
理 事	中 野 太 樹 一	野口地区防災士会
企画戦略部会委員	甲 斐 直 彦	野口元町1区自治会長・ 野口地区社会福祉協議会長
企画戦略部会委員	岩 尾 一 郎	西地区体育協会事務局長
企画戦略部会委員	中 村 悟	山の手小学校PTA会長
企画戦略部会委員	高 橋 淳 子	別府西中学校PTA会長
デジタル推進員	江 藤 敏 博	山の手町自治会副会長
デジタル推進員	佐 藤 智 之	
協議会事務局員	秋 吉 恵	

